MESSAGE 行政制度の管理運営

行政評価局政策評価課専門職

髙橋 大樹 TAKAHASHI DAIKI

平成22年 4月 総務省採用
関東管区行政評価局総務部総務課
平成23年 4月 長野行政評価事務所評価監視官付
平成25年 4月 長野行政評価事務所評価監視調査官
（長野行政評価事務所行政相談課行政相談官併任）
平成27年 4月 行政評価局政策評価課
平成29年 4月 行政評価局評価監視調査官
（人事院事務総局人材局研修推進課付併任）
（命 行政官国内研究員）
平成31年 4月 大臣官房総務課情報公開・個人情報保護係長
（大臣官房総務課公文書監理室主査併任）
（大臣官房政策評価広報課（渉外係）併任）
令和 3年 4月 行政評価局評価監視調査官（厚生労働等担当）
令和 4年 8月 （行政評価局政策評価課併任）
（行政評価局政策評価課客観性担保評価推進室併任）
令和 5年 4月 現職

洗練された政策の展開を目指して

クリエイティブな仕事、あります。

国の行政機関は、「政策評価法」に基づき、自らが所掌する政策の効果を把握し、それを評価することとされています。法の施行から20年以上が過ぎ、政策評価制度は広く浸透した一方、課題も見えてきました。

例えば、有効性の把握もその1つです。政策評価を行う上で、政策がどの程度効いたのかという視点は極めて重要ですが、複雑かつ急速に変化する社会の中で、その効果を特定することは容易ではありません。このため、効果検証手法の確立が求められています。

現在、私は政策評価課の一員として、この効果検証手法の開発に取り組んでいます。具体的には、ロジックモデル（政策が効果をあげるまでの因果関係を論理的に示した説明図）の作成、データの収集、定量的な分析などを行っています。今はまだ試行的な段階ですが、近い将来、こうした取組が定着し、政策の効果を見極めた上で、今以上に洗練された政策が展開されるよう日々業務に取り組んでいます。

成長し続けられる職場、あります。

「常識」や「価値観」は、時代の流れと共に移り変わります。それまで見落とされていた事柄が新たな社会課題として認識されたり、長年の課題に意外な解決方法がもたらされたりします。このため行政には、社会の変化を察知し、時代に適した形で自らを変化させていくことが求められています。

特に、国家の基盤と人々の暮らしを支える総務省の職員には、社会の変化を敏感に察知するセンサーとしての役割や、変化を引き起こす原動力としての役割が期待されています。こうした期待に応えるための力は、日々の業務を通じて身につきますが、私の職場では、これに加えて、若手職員による有志の勉強会が開催されています。勉強会では、「政策のあるべき姿」や「政策効果の分析手法」に関する議論が繰り広げられており、新たな知見を習得できる場となっています。社会の変化に迅速に対応するため、自らも日々変化していく。成長し続けられる職場が総務省にはあります。

Q 総務省を志望するようになったきっかけは何ですか？

大学時代に地方自治体が住民の声を行政運営に反映させていることを学びました。国の行政機関でも同様の取組が行われているのだろうかと考えていたところ、総務省の「行政相談」が国民からの相談を受け付け、行政運営の改善に役立てていると知り、興味を持ったのがきっかけです。

Q 総務省の魅力は何ですか？

「活躍の場の広さ」があげられます。私の場合、行政相談業務で様々な市町村を訪れ、地域の方々と一緒に地域の課題について議論する機会に恵まれたほか、政策評価制度の企画立案業務で諸外国の政府職員と意見交換する機会に恵まれました。このように、活躍の場はローカルなものからグローバルなものまで幅広く用意されていますので、好奇心旺盛な方にオススメです。

政策評価に関する海外調査での一コマ

PRIVATE TIME

趣味は「登山」です。長野で勤務していた際には、毎週末のように山へ行っていましたし、東京に異動してからも、度々同期と登山に出かけています。最近の夢は、娘が大きくなったら一緒に山に登ること。私が感動した景色（涸沢カールから見るモルゲンロート、尾瀬ヶ原に舞うホタル・・・等々）を一緒に見たいと思っています。

行政評価局企画課総括係長

阿部 千晶 ABE CHIAKI

平成24年　4月　総務省採用
　　行政評価局総務課政策評価審議室
平成25年　4月　統計局統計調査部経済統計課企画第一係
　　（統計局統計調査部経済統計課研究分析係併任）
平成27年　4月　関東管区行政評価局第一部評価監視調査官
平成29年　5月　（関東管区行政評価局第二部評価監視調査官併任）
平成29年10月　行政評価局評価監視官付（内閣、総務等担当）
平成31年　4月　消防庁国民保護・防災部防災課防災企画係長
令和　元年　7月　政策統括官付統計審査官室主査（人口・社会・農林水産統計担当）
令和　2年　4月　育児休業
令和　3年　4月　政策統括官付統計審査官室主査（経済統計担当）
令和　5年　4月　現職

力を合わせてよりよい国づくりを

様々な視点で見る

行政評価局では、国民に信頼される質の高い行政の実現のため、いわば政府のレビュー機能として、「①政策評価の推進」、「②行政運営改善調査」、「③行政相談」の3つの機能を担っています。

私の所属する企画課では、行政評価局の全てに関わる様々な業務を担っており、「①政策評価の推進」と「②行政運営改善調査」について審議を行う政策評価審議会の運営や、「②行政運営改善調査」に関するテーマ企画や支援、さらに、「①政策評価の推進」「②行政運営改善調査」「③行政相談」の全てを含めた、局全体の業務運営方針の策定などを行っています。

業務に当たっては、例えば「②行政運営改善調査」について各調査内容を細かく見る必要もあれば、局としてどのような動きがあるのか全体像を見ることも必要となります。国民を支える行政、その行政を支える行政評価局、その行政評価局を、多様な視点から支える役割を果たしていると感じます。

変化のまっただ中！

みなさんは「評価」という言葉から、どのようなイメージが浮かぶでしょうか。広辞苑には、「評価」とは「善悪・美醜・優劣などの価値を判じ定めること」と書かれています。行政評価局の業務は、各府省の行っている政策等の問題点を見つけて改善を図る、というもので、従前は、各府省の問題点を指摘することに重きが置かれており、まさに善し悪しについて判じる「評価者」「監督者」としての視点が強いものでした。

しかし、今後は、そのようなやり方は見直し、単にできていないことを指摘するのではなく、各府省の政策効果を的確に把握・分析し、政策効果を上げるために有益な情報を提供できるような、各府省にとって役立つ取組を行っていく、という方向へ舵を切っています。

どうしたらよくなるのか常に考え、柔軟に変化しながら進んでいく総務省の業務は、とても楽しくてやりがいがあります。ぜひ、興味を持っていただけると嬉しいです。

Q あなたが実践する「働き方改革」とは？

可能な限りテレワークを実施しています。日中はこどもを保育園に預けていますが、テレワーク時は通勤時間がない分、出勤時よりも保育園のお迎えや夕食の準備などが早くでき、心身ともに余裕が出ると感じます。ただ、テレワークのために職場の人と意思疎通しづらくなる、といったことがないよう、Web会議機能等の便利なツールはどんどん活用し、円滑に業務が進むよう努めています。

Q 仕事をする上で心がけていることはなんですか？

常にアンテナを張り、広い視野を持つよう心がけています。職場で打合せや議論をしていると、そういう見方もあるのか、その発想はなかったな、と感じることが多々あります。思考停止せず、多角的に物事を考えられるようになりたいと思っています。

テレワーク中にWeb打合せをする様子

PRIVATE TIME

休日は基本的にいつも娘（3歳）と遊ぶことが中心となっていますが、たまに、近所に住んでいる私の両親に娘を預けて、茶道のお稽古に通っています。普段とは全く違う空間で、自分のための時間を過ごし、おいしいお茶やお菓子も楽しみながら心のリフレッシュをしています。

統計局統計調査部経済統計課科学技術研究調査係長

丸井 美奈子 MARUI MINAKO

平成17年 4月　総務省採用
　　統計局統計調査部消費統計課物価統計室小売物価調査係
平成20年 4月　独立行政法人統計センター製表部管理企画課
平成22年 4月　内閣府青年交流第3担当主査付
　　（政策統括官（共生社会政策担当）付参事官（青年国際交流担当）付）
　　（子ども・若者子育て施策総合推進室室員併任）
平成24年 4月　統計局統計調査部消費統計課研究分析係長
平成27年 4月　統計局統計調査部経済統計課研究分析係長
平成29年 1月　統計局統計情報システム課統計情報企画室情報企画係長
　　（業務支援係長併任）
平成29年 4月　統計局統計利用推進課情報企画係長
　　（業務支援係長併任）
　　（地方業務支援係長併任）
平成31年 4月　統計局統計情報利用推進課業務支援係長
　　（総務課併任）
　　（統計データ利活用センター主査併任）
令和　5年 4月　現職

様々な場面で利用される統計調査

思った以上に幅広い業務

私は現在「科学技術研究調査」を担当しています。この調査では企業等の研究活動の実態を把握し、日本における科学技術研究費や研究者数等の調査結果を提供しています。少し前に話題になった言葉に“リケジョ”がありますが、調査結果によると女性研究者の割合は年々上昇していることがわかります。また、国際基準に準拠した調査項目になっていますので、調査結果を国際比較することもできます。主な業務としては、調査の企画・設計、調査結果の公表を行っていますが、海外のサイトの確認や国際機関からの照会対応も行います。具体的には、調査用品の作成、調査実施中の調査対象からの質問対応、報告書の作成、調査結果に関する問い合わせ対応、他省庁との調整、国際機関へのデータ提供等、調査の規模は小さいながらも幅広い業務を経験できます。これらの業務を担当内で分担し、こまめに情報共有を行いながらより良い調査となるよう日々協力して進めています。

なくてはならないもの

和歌山の統計データ利活用センターでは、地域課題に統計データを活用して支援を行う事業や民間企業向けの統計セミナー等を担当していました。同じフロアに和歌山県庁の方も勤務されていましたので、県と連携してイベントを共催する等、地方創生に貢献する取組みも経験することができました。地方公共団体の方々と意見交換を行う機会も多く、人口減少対策や街づくり、空き家対策等の施策に様々な調査結果が利用されていることを伺いました。また、企業の方へのヒアリングの際に、頻繁にe-Stat（政府統計の窓口）を使っていますとお聞きし、市場分析や将来予測等に統計調査の結果を利用している事例を教えていただくこともありました。行政運営やビジネスにおいて調査結果が広く役立てられていることを実感し、改めて、統計調査はなくてはならないものであるということを強く感じると同時に、あるべき姿を正確に捉えて国民の皆様に還元することの重要性を実感しました。

Q これまで携わった仕事で達成感があった仕事は何ですか？

「科学技術研究調査」では、毎年5月に調査票の配布を行い、提出された調査票を集計した後、12月に調査結果を公表しています。回答者の皆様から届いた調査票一枚一枚が調査結果として集計され公表され国民の皆様に届けられることは、多くの方と協力して進めてきたことが成果に繋がる瞬間であり感慨深いものがあります。

Q 就職活動を行う人に対してメッセージをお願いします。

統計調査は、ご回答いただく方々を始め、地方公共団体の方々、調査員の方々、その他多くの方々のご尽力があって初めて調査結果を公表することができます。また、調査結果は誰もが利用することができます。多くの方と作り上げて多くの方の役に立つ統計調査、少しでも興味がありましたらぜひ総務省を訪れてみてください。

インターンシップ生との交流

PRIVATE TIME

カフェ巡り、観光、コンサート鑑賞等を楽しんでいます。なるべく頭を空っぽにしてリフレッシュするようにしています。和歌山にいた頃カフェが多いなと思っていたのですが、経済センサスの調査結果によると、和歌山県の「喫茶店」の都道府県別人口1千人当たり事業所数が上位にランクインしていました。

統計局統計調査部経済統計課経済センサス室統計専門職

鴨志田 世勝　KAMOSHITA TOSHIMASA

平成23年 4月　総務省採用
　　統計局総務課用度係
平成24年 8月　大臣官房会計課
　　(大臣官房会計課予算執行調査室室員併任)
平成26年 7月　統計局統計調査部国勢統計課企画係
平成28年 4月　財務省主計局厚生労働第三係
平成30年 4月　大臣官房秘書課主査
令和 2年 4月　統計局総務課統計専門職
令和 3年 5月　統計局総務課予算係長
令和 5年 5月　現職

知っていますか？統計局の仕事

「統計」は国家の羅針盤

今まで幅広い業務に携わらせていただきましたが、現在は経済センサス-活動調査という調査の企画業務を担当しています。日本の全ての事業所を対象としているため、その規模の大きさや内容の複雑さに日々戸惑いつつも、この調査が将来世の中に対してどんな影響を与えるか、どんなふうに役に立てるのかを考えながら働いています。世の中に大量の情報が溢れ返るビッグデータの時代においては、数ある情報の中からどのようにして新たな価値を創造できるかが問われているのだと思います。その中で、信頼に足るデータを正確かつ迅速に利用者が使いやすい形で提供していくという統計局の仕事はまさに「縁の下の力持ち」だと思います。「統計が乱れると国が乱れる」。そうならないように目の前にある課題に対して愚直に、時には大胆に取り組んでいくことができる組織です。興味をお持ち頂いた方は是非一度総務省の説明会に足を運んでみてください。

自己成長できる環境

自分が入省してから10年以上が経ちますが、入省当時と今とではかなり状況が変わっている気がします。業務はどんどんデジタル化、効率化され、テレワークやフレックスなどの働き方も当たり前になりました。一方で統計という仕事は、過去脈々と行ってきた統計調査をこれからも続けていくという観点でみると少し前例踏襲に陥りがちな性質があると思います。しかし、日々めまぐるしく変化していく時代に、淡々と今まで通りの方法で調査を行ったのでは時代錯誤で非合理的な内容になるのは明らかです。これから統計局で働かれる方々には、その時代におけるニーズに対応することができる「しなやかさ」が求められていると思います。そう聞くとなんだか大変そうと思われてしまうかもしれませんが、統計局は職員に対する研修も非常に充実していますし、頼りになる上司や同僚がたくさんいますので、自分のやる気次第で、楽しみながら働けて自己成長もできる職場だと思います。

Q 今までに一番印象に残った仕事はなんですか？

国勢調査の企画の仕事です。全国の地方公共団体の職員の方々や調査員の方と協働して調査を行っていくことは非常にエキサイティングでやりがいを感じました。無事に調査を終えたあとの「やり切った」という満足感に溢れた職場の雰囲気は今でも忘れられません。現在担当している業務でも当時と同じような、むしろそれ以上の経験が出来るようにこれから全力でやってみようと思っています。

Q 仕事をする上で心がけていることはなんですか？

できるだけ苦手な分野を作らないことを意識しています。少しでも知識があったり、得意な業務に対しては良いアイディアがどんどん湧いてきて作業も捗り楽しくなってきます。ですので、どんな仕事でもまずは逃げずにやってみて、その中から少しでも知識や経験値を吸収しようと考えています。

統計局から見える新宿の風景

PRIVATE TIME

学生時代はずっとサッカーをしていたので土日は職場の同僚たちとフットサルの大会によく出ていました。ただ、最近は年のせいか走れなくなってきたのもあって体力があまり必要ないダーツにハマっています。下は係員から上は管理職まで幅広い世代の同僚や先輩たちとお酒も飲みながらワイワイ楽しんでいます。